

会員各位

平成24年7月2日

協会だより235(7月号)

触媒資源化協会

1. 協会よりのお知らせ

<トピックス>

- 第213回月例会（講演会）の開催は7月13日（金）14時からニュー新橋ビルB2（JR新橋駅前）のニュー新ホールで開催
講演演題は「有機EL」と「バイオマス・リファイナリー」共に講師は産総研の研究者です。講演会出席者数は49名となっています。



カタクリの花（昭和記念公園）by Takashi Matsuda

- 協会よりのお知らせ
【実施済事項】 【予定事項】
- 経産省よりの連絡
- 一泊研修会の概要お知らせ
- 協会会長交代のお知らせ
- 代表者交代・担当者の交代と会員会社の本社移転等
- 事務局より（七月度の予定）
- シルクロードの旅（西川久雄氏）

【実施済事項】

- ① **協会だよりー234（6月号）**をメール&郵便で送信（6/1）
- ② 第215回月例会（一泊研修会）幹事会
日 時：6月20日（水）16時～
場 所：協会事務所（新橋）
出 席：DOWA メタルマイン(株)、小島化学薬品(株)、日誠金属(株)、新興化学工業(株)、事務局。
- ③ 第二回役員会
日 時：6月29日（金）11時00分～11時30分
場 所：(株)徳力本店会議室
出 席：JX日鉱日石金属(株)、松田産業(株)、(株)徳力本店、太陽鋳工(株)、ジョンソン・マッセイ・ジャパン、田中貴金属工業(株)、小島化学薬品(株)、事務局
目 的：大井会長（第十一代）退任と新会長大籾氏（第十二代）の就任承認。

【予定事項】

① 第213回月例会（講演会・懇親会）

日 時：7月13日（金）14時～19時

場 所：ニュー新橋ビル・ホール（新橋）

演題1：有機エレクトロルミネッセンス

講師 今野 英雄氏（産業技術総合研究所）

演題2：バイオマス・リファイナリー

講師 富永 健一氏（産業技術総合研究所）

懇親会場：養老の瀧 新橋烏森口店にて

② 第214回月例会（見学会）幹事会及び第二回運営委員会

日 時：7月19日（木）14時30分～17時00分

場 所：堺化学工業(株)会議室

出 席：幹事会（14：30～15：30）

（株）光正、三菱マテリアル(株)、東京化学開発(株)、日揮触媒化成(株)、事務局

出 席：運営委員会（15：30～17：00）

運営委員、第214回月例会幹事会社、事務局

2. 経産省よりの連絡【お知らせ】

- ・6/5 革新的低炭素技術集約産業国内立地推進事業費補助事業の公募開始
- ・6/6 再生可能エネルギー全量買取制度 賦課金減免申請書ドラフトの公開について
- ・6/7 平成24年度省エネルギー大賞募集中
- ・6/8 2013年輸出入統計品目表の改正要否について
- ・6/12 自家発電設備導入促進事業費補助金の公募内容変更・締切延長について
- ・6/13 再生可能エネルギー全量買取制度 賦課金減免申請書（一部追加情報）について
- ・6/14 自家発電設備導入促進事業費補助金の公募内容変更等に係るQ&Aについて
- ・6/18 再生可能エネルギー全量買取制度 制度の詳細を定める法令が公布されました
- ・6/19 再生可能エネ全量買取制度/賦課金減免認定申請期限延長（7/13まで）
- ・6/20 団体概要情報ご提供のお願い（7/6（金）目途）

3. 【重要】一泊研修会の概要お知らせ

開催日時：10月19日（金）～20日（土）

集合場所：JR盛岡駅南口（東北新幹線）

盛岡駅より往復バスで移動いたします。

見学先：(株)エコリサイクル工場・エコシステム秋田(株)工場・小坂鉦山事務所

秋田県大館市花岡町字堂屋敷30番2他

宿泊旅館：龍門亭・千葉旅館（大湯温泉）

秋田県鹿角市十和田大湯字上の湯16番地

ゴルフ（オプションで）：安比高原GC

岩手県八幡平市安比高原180-1

備考：近々ご案内を差し上げますので会員におかれては予め、予定に入れて置いてください。

4. 協会会長交代のお知らせ

6月29日、現会長（第十一代）の大井滋氏がJX社内人事異動にて常務執行役員 金属事業本部審議役 資源開発部管掌 経営企画部（プロジェクト）管掌に就任され、事業本部をお替りになったことにより当協会長を退任されました。会則第11条2により、JX社より後任会長（第十二代）として大藤俊洋氏（JX日鉱日石金属㈱取締役副社長執行役員 環境リサイクル事業本部長）が推薦されました。6月29日開催されました第二回役員会にて満場一致で承認されました。



（左）大藤俊洋新会長 （右）大井滋前会長

5. 代表者交代・担当者交代と会員会社の本社移動等

● 代表者の交代

エヌ・イーケムキャット株式会社

（前）代表取締役社長 奥村 明殿 ⇒（新）代表取締役社長 成尾友良殿

6月22日開催された株主総会にて奥村明殿が退任され成尾友良殿が後任として就任されました。

● 担当者の交代

① 石福金属興業株式会社 （運営委員会委員）

櫻井正之氏 ⇒ 中津 滋氏

櫻井氏が製品製造部より品質保証部へ移動されたため、製品製造部の中津氏が協会の担当者になり運営委員も引継ぎをいたしました。（6/1）

当面、櫻井氏も中津氏と協会行事へ出席いたします。

② 太陽鉱工株式会社 （調査・技術委員会M○-V-W部会長）

神谷康司氏 ⇒ 荒巻裕二氏

神谷氏が大阪支店に転勤のため後任として荒巻氏が調査・技術委員会

M○-V-W部会長を引継ぎいたしました。（7/1付）

● 本社移転

【双日株式会社】

<新住所>東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル24階

電話 03-6871-2327（貴金属課代表）FAX03-6871-5579（7/17より）

✓ 飯野ビルの場所は経済産業省旧館の向かい側となります。

6. 事務局より (7月度の予定)

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	2	3	4	5	6	7
	○	○	×	○	×	×
2週	9	10	11	12	13	14
	×	OB会 (スイジン会)	×	○	第213月例会 懇親会	×
3週	16	17	18	19	20	21
	×	○	×	214月例会幹事会 第2回運営委	×	×
4週	23	24	25	26	27	28
	×	○	×	×	○	×
5週	30	31	8/1	8/2	8/3	8/4
	○	○	○	×	○	×

事務局延べ出勤予定：11日 (○；終日、△；半日、×は休日)。

7. シルクロードの旅

今回は、敦建、西安、平遥、太原そして首都北京を旅しました。私にとっては、6回目の中国、ただし北京を除けば、初めての訪問先でした。中国北西部の遺跡、仏跡、石窟など探索の特別な企画で、地域仲間7人の旅です。

最初に上海経由で訪問した敦建は、飛行機の上から見ると、まだ雪を頂いた山脈とその麓は広大なゴビ砂漠が広がっており、そんな中に敦蛙の街(まち)がふっと現れるという不思議な感覚の砂漠街、オアシス街であった。



砂漠の莫高窟入口



砂漠の莫高窟 (敦煌)

砂漠を30分ぐらい車で走ると石の有名な石窟「莫高窟」がある。草の層と砂漠の層で固められている、紀元前の石窟といわれ、800年か1000年前に発見され、石窟の数は492窟といわれている。それぞれの石窟に番号が付けられ鍵が掛かっており、ガイドが中に入るたびに鍵をあける。中は薄暗く懐中電灯で照らしながら見事な塑像を見る事が出来る。阿弥陀如来を中心にしたものが多いが、書薩、飛天、仁王像、釈

迦涅槃像など数えきれない。中心に位置する塑像の表情はほれぼれする優しさと美しさが漂う。そしてその横には弟子たちや多くの花が壁画として描かれている。45窟と57窟が特別鑑賞の石窟で、新たに入場料を支払い観賞する。この二つの石窟(仏像)の神秘さは言葉では説明することが出来ない崇高なものであった。このうちのひとつが作家井上靖の小説「敦煌」の舞台という。まだ読んだことがないので読んでみたいと思う。

帰りは、ゴビ砂漠探索です。靴の上から特殊な布袋を履いて、砂漠を歩き、砂塵の中の鳴砂山を目指す。三日月の形の月牙泉が姿を見せる。まさにオアシスである。砂塵が舞ってもこの湖泉は砂が入らない、それは特別な渦巻きのような風向きによるらしい。帰りはラクダに乗り、門の入口まで行く。キャラバン隊そのものであった。敦煌は市内3万人、郊外を入れて4万人の人口。観光と農業(麦とトモロコシ、野菜)が主な収入。年間の降雨量は、39



砂嵐の中 ゴビ砂漠のキャラバン

ミリ、ところが砂漠探索の夜、3ミリぐらいの雨が降った。ガイド嬢は、私たちに「恵の客」と喜んでいて。山脈と砂漠と歴史街、そのコントラストの不思議な街であった。



兵馬俑(西安)

古都西安は、ご存知「シルクロード」の起点となるところである。ここは市内を取り囲んだ「城塞」と粘土像「兵馬俑」がある。一部2000年前の、破壊されているものの、その像も残っているが、ほとんどが修復されたもの、立派な体格の漢民族の立像と軍馬の勇姿をみることが出来る。うす暗いが写真も撮れるようになっていた。兵馬備が発見されたのはまだそんな古い話ではなく、ある農民が井戸を掘っていて発見した

という。その子孫が館内に立っていた。ついでながら、先の「莫高窟」も煙草を吸っていた人が、その煙が風に吸い込まれていくので、中が洞窟になっていることに気づいたというエピソードがある。

西安は、人口1000万人の大都市であるが、それだけ交通渋滞が激しく、それでも夜景の美しさは格別であった。郊外に善導大師ゆかりのお寺(香積寺)、三蔵法師のお墓とお寺(興教寺)、インドの經典を翻訳(意識)した秀才「鳩摩羅什J(クマラシ・ユウ)ゆかりのお寺(草堂寺)などを見学した。まさに京都との姉妹都市の面影があった。なお先に訪れた敦煌では、鳩摩羅什の自馬塔も見学した。この人は、7歳からその才能を発揮したという。

西安からは、夜行寝台で平遥に向かった。昔の日本の寝台列車に似ていて、ワンボックスに4個のベッド、どうせ寝れないので、1時頃まで飲み会であった。案の定ガタゴトとする列車で眠れなかった。夜が明けると車窓からは、どこも同じような風景のところを走

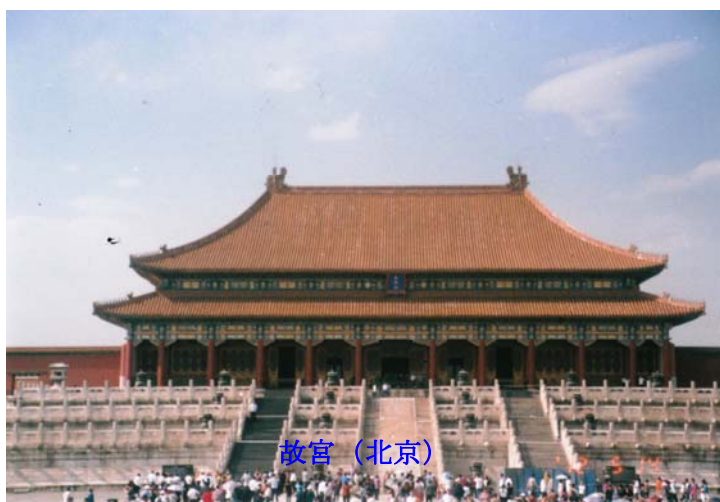
っていた。時に炭鉱の街みたいなところを何度か通過した。まだまだ石炭が掘られているのだ。あとで石炭で大金持ちになった人の話を聞いた。日本の戦後から昭和 30 年代を思い出した。

平遥もまた大きな城塞と碁盤目のように街並みで出来ており、1997 年日本人の中野 OO さんとかいう人が、この街の美しさを保存すべきであり「世界遺産」になる努力してくれたとガイドが感謝を込めていた。何処の古い町でも城塞があるが、それだけ多くの少数民族の中での戦禍が絶えなかつたのであろう。平遥は「世界遺産」となり、そのお陰で、今は世界中から観光客が来てくれ、民宿、ガイド、おみやげで潤っているようだ。

若い女性のガイドが目立った。ここでの昼食は 4 種類の麺を味わった。5 つ星のレストランであった。

そして、平遥市内から郊外に向けてガタガタ道を 1 時間ぐらいかけて、「太原」(たいげん)に向かう途中の山の上に、「玄中寺」があった。このお寺は、日本の浄土宗「法然上人 J」が抛りどころとした「曇鸞大師 J」のお寺であつた。途中殆ど人に出会わなかつたのに、お寺に着くと結構参拝客とお坊さんがいた。お寺は、1500 年以上の歴史があり、修復中であつた。

この夜は、太原に泊まつた。太原は落ち着きのある古い歴史街で、多くの寺院が見られる。明るる日、太原からは、中国が誇る?新幹線に乗つた。北京まで 560km、(新大阪か盛岡ぐらゐの距離)を 3 時間 30 分、時速 200km 以下で走っていた。ほとんど揺れがなく、快適な列車であつた。見渡す限りの麦畑が目立った。中国大陸は広大だ。



北京では、天安門広場、故宮と歩きづめで、3 時間以上足での散策だつた。故宮はラストエンペラーで有名になり、中国の皇帝の音を偲ぶ事ができるが、見物するのは建築物で、陳列の中身のほとんどは蒋介石が台湾に運び、台湾故宮の方が見るものが多い。夜は、久しぶりの北京ダックを賞味した。北京ダックは、本来皮のところを食べるものと思つていたが、この夜のそれは、肉がついたもので、パリパリ感がなかつた。

勤めていた前の会社で部下だつた H 君が 2 年前設立した新会社の社長をしており、駆けつけてくれ、あと日本風の居酒屋でご馳走になつた。

明るる北京最後の日は、万里の長城に向かつた。3 回目の登城であつたが、今回ケーブル

ルカーで途中まで登つたため、上からの眺めが全く違っていた。それでも、建造物として6,600kmとはスケールの大きさはさすが中国である。

8日間、仏跡、石仏、寺院など佛教伝来のルーツを探る旅でもあった。速い音のインドに想いを馳せ、そして日本の今の佛教を考える旅でもあった。

朝から夜まで中華、中華であつたが、食材、料理方法、味、飲み物など違うのでそんなに飽きもしなかつた。良く



万里の長城

食べ、良く飲み、良き学習の機会でもあった。北の方は米が出来ないので、麦が多く獲れ、主食は麺類、それも長さがあり、長いほど縁起が良いと言う。ただ、南や台湾と違い、果物がイマイチだつた。旅行中は、現地のガイドも専門的な知識があり、また親切な心に触れ、心に残る「シルクロードの旅」であつた。

お店での買い物交渉術も日

を追うごとに手慣れてきて、大きな成果を得たように思う。特に、女性群の買い物に関する興味は、いつの時でも旺盛で日の輝きが違う。

以前来た時と違うのは、車が増え、その代わり自転車は極端に減つて、電動自転車に代わっていた。空気がどんよりしているのも環境の変化であり、今後環境への対策が重要と思われた。日本の技術が活かされると思う。

一方では、中国の古典や詩歌で知る古代中国思想と現代の人の心には隔たりがあるように思った。経済発展もそのひとつの現れであろうか。一人つ子政策も今からの先の労働力など考えて行くと曲がり角に来ているように思う。

日本からの観光客も減少傾向にあるという。ギクシャクした関係が影響しているのであろうか。古くから関わりのある隣国、友好と親しみをもって、お互いの繁栄を図るべきであろう。(平成24年5月8日～15日)

西川久雄(元触媒化成工業㈱ OB)

【西川さんの紹介】

当協会発足時(今より37年前)の初代会長は触媒化成工業㈱の山本為親さんでした。事務局も会長会社に置き、その事務も山本さんに協力して西川さんが担当していたという謂れがあります。そのくらい当協会と西川さんは長い付き合いになります。また氏は第四代運営委員長として平成6年～9年の四年間運営に尽くされ、その後も定年まで触媒化成工業㈱の協会の担当でした。お住まいの鎌ヶ谷市では環境関連のNPOエコネットかまがや(市民と共に取り組む地球温暖化防止活動)を立上げ、代表として活躍されています。現在は協会役員経験者OB会(スイジン会)のメンバーとして、また協会主催のゴルフコンペにも精力的に参加して頂いています。

(記：事務局・小林尚道)